

たいせんざん
大船山のミヤマキリシマ群落

国指定 天然記念物
指定された年: 昭和36年
指定地面積: 3,432,800㎡

今年で
63年目!

くじゅう連山を代表する植物「ミヤマキリシマ」。九州の主に火山地域に生育しています。花期の5月～6月には、全国から多くの方がミヤマキリシマを求めてくじゅう連山を訪れます。中でも大船山のミヤマキリシマは、群落の広大さや美しさが学術上貴重であることから、国の天然記念物に指定されました。また、大分県レッドデータブックでは準絶滅危惧種 (NT) にも指定されています。



↑北大船山から大船山を望む



しつてもきれいなピンクの花をよかせます

火山とともに生きるミヤマキリシマ

ミヤマキリシマが生育している環境を見ると、風が強く吹き付けるところ、ザレ場や火口付近など他の植物が育つには厳しい自然環境下であることがわかります。火山特有のガスや高山の寒冷な気候などといった環境の中で育ちながらも、毎年美しい花を咲かせます。火山が生んだきびしい環境に根付き、力強く咲くミヤマキリシマ。これからも多くの人に愛されるものであってほしいですね。

くじゅうにツツジが大集合!

「コケモモ」と「ミヤマキリシマ」この2種の共通点は『ツツジ科の植物』だということ。くじゅうには、他にもツツジ科の仲間たちがたくさん生育しています。その数なんと約20種類! さっそく、くじゅうで見る事ができるツツジの仲間を紹介しましょう♪

①アセビ

くじゅう連山の常緑樹代表種アセビ。あちこちにアセビのトンネルができるほど、多く自生しています。4月～5月に白い壺型の花をすずなりに咲かせます。アセビは漢字で「馬酔木」と書きます。毒を持つ植物の1つです。



アセビ

②ドウダンツツジ

紅葉時、くじゅう連山を赤く染める木の多くがドウダンツツジの仲間です。くじゅうにはベニドウダン・シロドウダン・ツクシドウダンの3種類が自生しています。5月～6月に小さな花を下向きに咲かせます。



③ギンリョウソウ

君もツツジ科なの?!と思わずにはいられません。その見た目から、別名ユウレイタケとも呼ばれます。葉緑素を持たない、菌従属栄養植物です。森の中の落ち葉の上や、タデ原の森の散策路でも見ることができます。花期は5月～6月です。



ギンリョウソウ

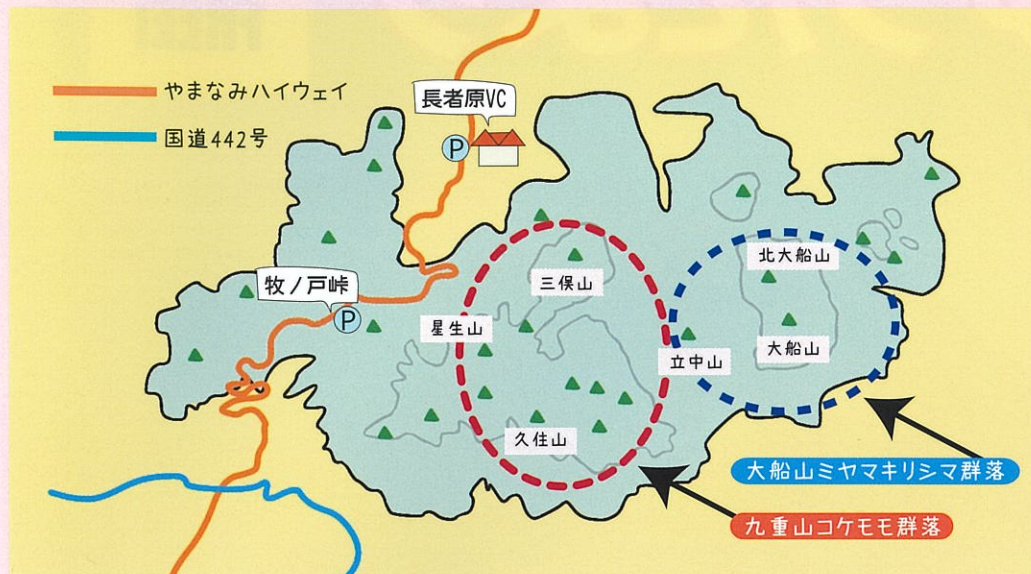
Q. "天然記念物" ってなんだろう?

A. 天然記念物とは、学術上とくに貴重で保存の価値がある、動物、植物、地質・鉱物とそれらに富む天然保護区域のことです。国の文化財保護法によって指定された、文化財の一つでもあります。



くじゅうには九州の屋根とも呼ばれるくじゅう連山や、国内最大級の中間湿原である坊ガツル・タデ原湿原、美しく広大な草原の中に、多様な動植物が息づいています。春の野焼き・夏の新緑・秋の紅葉・冬の雪など四季を通じて様々な表情を見せてくれるくじゅう。そんな豊かな大自然が残るくじゅうに、天然記念物があることをご存じですか?今回はそんなくじゅうの二つの天然記念物にクローズアップしてみたいと思います。

阿蘇くじゅう国立公園90周年記念
くじゅうの『天然記念物』に迫ろう!



↑天然記念物として指定された範囲(点線)

くじゅうざん
九重山のコケモモ群落

国指定 天然記念物
指定された年: 昭和37年
指定地面積: 6,516,000㎡

今年で
62年目!

ミヤマキリシマと同じ時期、足元に咲く小さな可愛らしい花コケモモ。日本での分布は広く、北海道～九州までの亜高山帯～高山帯の林縁や草地・岩場に生えます。コケモモはくじゅう連山が九州地方で唯一の分布地であり、日本における分布の南限地として、国の天然記念物に指定されました。また、大分県レッドデータブックでは準絶滅危惧種 (NT) にも指定されています。



↑陽の光を浴びて可憐に咲き誇るコケモモ

～北の国からやってきた!!コケモモの旅～

コケモモの分布域は、日本以外にヨーロッパ・ユーラシア大陸北部や北アメリカの森林など、北極圏に近い場所まで広く分布しています。ではなぜ遠く離れた大陸から、日本にコケモモが渡ってきたのでしょうか?それは約1万5千年以上前、日本と大陸とが陸続きだった寒い時代に、北の地域から植物が陸を渡って南下してきたからです。その後気候の温暖化に伴い、寒い地域からやってきた植物たちは涼しい場所を求め、高い山へ移動したと考えられています。コケモモは寒い北の国からやってきた植物の一つなのです。



わたしたちのことも、ぜひ見つけてみて